

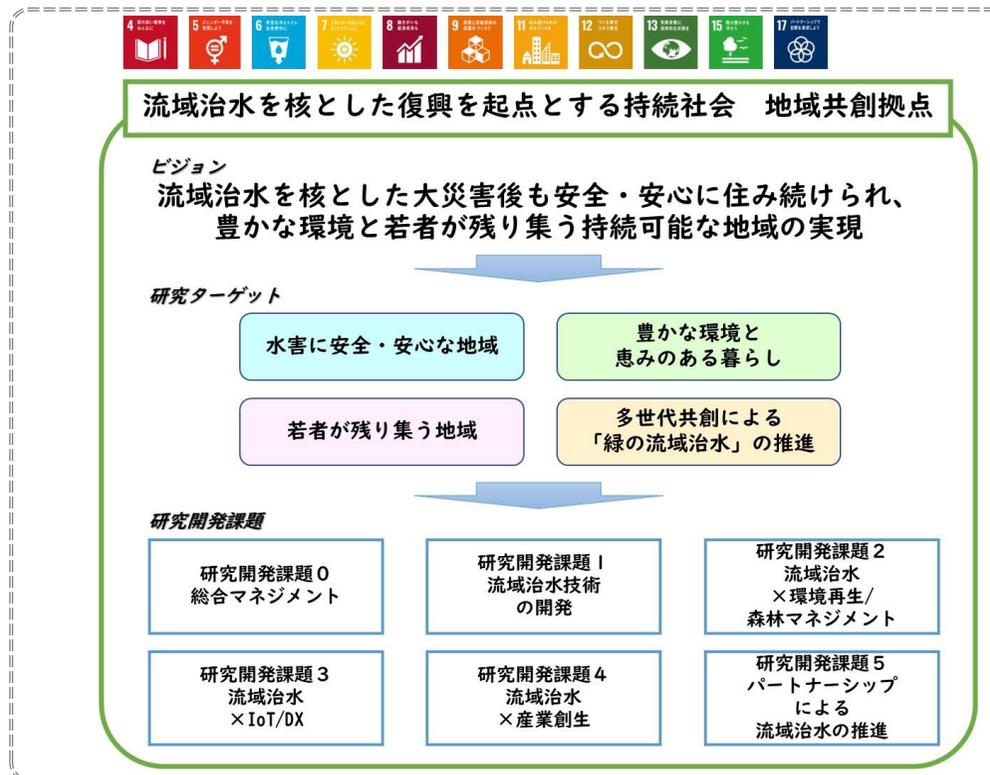
# 拠点名称：「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会」地域共創拠点

代表機関	熊本県立大学	プロジェクトリーダー	島谷幸宏 熊本県立大学 共通教育センター 特別教授
幹事自治体	熊本県	幹事機関	(株) 肥後銀行
参画機関	熊本大学、大正大学、名古屋工業大学、信州大学、九州大学、東京大学、公益財団法人地方経済総合研究所、滋賀県立大学、熊本高等専門学校、九州オープンユニバーシティ、聖学院大学、東京学芸大学、政策研究大学院大学 株式会社テレビ熊本、株式会社ライズナー、株式会社リバー・ヴィレッジ、アジア航測株式会社、株式会社建設技術研究所、株式会社フクユ-緑地、株式会社ネオコンクリート、三井住友海上火災保険株式会社、城東リポン株式会社、株式会社東武園緑化、マザーズロック協会、全国トース技術研究組合、特定非営利活動法人日本国際湿地保全連合		

## プロジェクトの概要

本拠点は、2020年7月豪雨により、大水害に見舞われた球磨川流域を対象に、10年後を見据え「緑の流域治水を核とした大災害後も安全・安心に生き続けられ、豊かな環境と若者が残り集う持続可能な地域の実現」をビジョンとし、代表機関：熊本県立大学、幹事自治体：熊本県、幹事企業：肥後銀行という体制で産学官の地域共創拠点を形成し、水害後の持続的な地域への復興という課題に対して、その解決を図るものである。

「水害への安全・安心」「豊かな環境と恵みのある暮らし」「若者が残り集う地域」「多世代による緑の流域治水の達成」をターゲットとし、「緑の流域治水」に関わる流域治水技術開発、ボトムアップ型統合計画論、環境再生手法、ボトムアップ型地域DX、サステナブルな産業創出、パートナーシップによる推進手法について研究を実施し、球磨川流域の持続的発展に資する。



**拠点名称：「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会」地域共創拠点**  
**代表機関：熊本県立大学**  
**プロジェクトリーダー：島谷 幸宏（熊本県立大学 共通教育センター 特別教授）**

研究開発課題0 総合マネジメント 目標		年度
中間目標1	概念化	2025
中間目標2	国際機関との連携	2028
最終目標1	地域共創流域治水の概念化と手法の総合化	2030
最終目標2	地域共創流域手法の国内外への普及	2030
研究開発課題1 流域治水技術の開発 目標		年度
中間目標3	3種類の土地利用に対する要素技術の実装	2023
中間目標4	要素技術の実装（すべての土地利用、流達過程技術）	2026
最終目標3	土地利用別の流出抑制技術・氾濫流抑制技術の開発	2030
最終目標4	流達過程の流出抑制技術の開発	2030
最終目標5	流域治水水理水文モデルの開発・適用・評価	2030
研究開発課題2 流域治水×環境再生/森林マネジメント 目標		年度
中間目標5	迫湿地への実装	2023
中間目標6	森林トレーサビリティの実装	2025
最終目標6	環境データベースの構築	2030
最終目標7	流域治水と連動した環境再生手法の手引き	2030
最終目標8	流域治水の多面的評価手法の確立	2030
最終目標9	流域治水のための森林マネジメントガイドライン	2030

<b>研究開発課題3 流域治水×IoT/DX 目標</b>		
中間目標7	クマカメ、クマセンサーの実装	2023
中間目標8	クマネットの構築、DXへの展開着手	2025
最終目標10	IoTを用いた避難システムの確立とDX展開	2030
<b>研究開発課題4 流域治水×産業創生 目標</b>		
中間目標9	3の産業創成	2023
中間目標10	毎年1つの産業創成	2029
最終目標11	創生した産業の定着	2030
<b>研究開発課題5 パートナーシップによる推進手法 目標</b>		
中間目標11	さまざまな取り組みの開始	2023
中間目標12	活動評価と見直し	2025
最終目標12	流域治水実行時のパートナーシップ手法の確立ガイドブック	2030

**拠点名称：「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会」地域共創拠点**  
**代表機関：熊本県立大学**  
**プロジェクトリーダー：島谷 幸宏 (熊本県立大学 共通教育センター 特別教授)**

研究開発課題	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
課題0：総合マネジメント				概念化着手	中間目標	水文観測結果の分析、国際、国内展開		中間目標	全体の統合	
課題1：流域治水技術の開発	要素技術の実装		中間目標	水文モデルの開発、要素技術の開発、流達過程技術の開発と実装		中間目標	水文モデルの適用と評価、要素技術・流達過程技術の評価・及び各技術の総合化			
課題2：流域治水×環境再生/森林マネジメント	流域治水×環境再生実装の着手		中間目標	環境データの蓄積、環境再生の場の拡大、森林マネジメント研究着手		中間目標	環境データの蓄積と統合化、流域治水評価手法検討、森林マネジメント手法の確立に向けて			
課題3：流域治水×IoT/DX	地域共創IoT導入開始		中間目標	ネットワークシステム構築、IoT横展開		中間目標	ネットワークシステムの活用、農業と避難IoT連動			
課題4：流域治水×産業創成	流域治水×産業創成の着手		中間目標	流域治水×産業創成の着実な実施、新分野の開拓					中間目標	
課題5：パートナーシップによる推進手法目標	主体形成、連携、学習活動の開始		中間目標1	主体間連携を促進するための手法開発、これまでの活動の継続		中間目標2	パートナーシップ促進手法の拡張的実装と評価各活動の連動			

それぞれの課題の最終目標

ターゲット1の実現

ターゲット2の実現

ターゲット3の実現

ターゲット1の実現

ターゲット4の実現